

## 引用文献

- 1)厚生労働省 精神保健医療福祉の改革ビジョン（概要）  
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/dl/tp0902-1a.pdf> [2010-11-27]
- 2)長野敏弘(2009). 病棟から地域サービスへの転換. 精神科臨床サービス, 9(3), 372-377.
- 3)谷中輝雄(1996). 精神障害者支援の新展開 生活モデルの援助活動 理念と方法. 地域保健, 27(8), 46-59.
- 4)萱間真美(2005). 第1章1 精神科訪問看護の始まりとその役割. 坂田三允総編集. 精神看護エクスペール 8 精神科訪問看護. 中山書店. 2-6.
- 5)Scholler-Jaquis. A. (2007). Part4Chapter28 Caring for Clients in the Community. Fortinash, K. M. , Holoday Worret, P. M. (Eds). Psychiatric Mental Health Nursing fourth edition. Mosby. 625-640.
- 6)高橋清久(2001). ケアガイドラインに基づく精神障害者ケアマネジメントの進め方-ケアマネジメント従事者養成テキスト（改訂新版）. 精神障害者社会復帰促進センター（全家連）. 215-311.
- 7)末安民生・田上美千佳・長直子・新村順子(2007). 第4章 精神障害者のケアマネジメント. 長谷川浩編. 系統看護学講座別巻 12 精神保健福祉. 医学書院. 72-97.
- 8)黒田研二(1998). 地域精神保健福祉の展開とケアマネジメント. 公衆衛生精神保健研究会. ケアマネジメントと地域生活支援. 中央法規出版. 1-16.
- 9)チャールズ・A・ラップ(2010). 特集リカバリー志向の実践とプログラム ストレングスモデルケースマネジメント：その思想と科学. 精神障害とリハビリテーション, 14(1), 6-16.
- 10)石鍋圭子(2001). II 総論 多職種チームの中で常に問われる看護職のアイデンティティ. 石鍋圭子著者代表. リハビリテーション専門看護 フレームワーク／ビューポイント／ステップアップ. 医歯薬出版. 40-45.
- 11)木村尚美(2010). 特集2 クリニックで働くということ 他のクリニックで働いているナースからのアドバイス②. 精神看護, 13(2), 50-57.
- 12)根本英行(2006). 第4章 デイケア. 坂田三允総編集. 精神看護エクスペール 5 精神科リハビリテーション看護第2版. 中山書店. 128-133.

- 13) 大塚真理子・横山恵子(2009). 専門職連携教育の現場から①専門職連携教育と精神科看護領域における展望. 精神科看護, 36(10), 23-29.
- 14) 中井有里(2005). 第2章1 訪問看護とアセスメント. 前掲書 4). 30-39.
- 15) 山崎登志子・齋二美子・岩田真澄(2002). 精神科病棟における看護師の職場環境ストレスサーとストレス反応との関連について. 日本看護研究学会雑誌, 25(4), 73-84.
- 16) 山崎登志子・伊藤幹佳・長谷川博亮(2003). 看護師におけるバーンアウト蛍光と対人葛藤との関連-ユニット間の比較を通して-. 宮城大学看護学部紀要, 6(1), 51-59.
- 17) 古屋肇子・谷冬彦(2008). 看護師のバーンアウト生起から離職願望に至るプロセスモデルの検討. 日本看護科学会誌, 28(2), 55-61
- 18) 厚生労働省 新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム (2010/05/31)  
[http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0531-14c\\_0001.pdf](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0531-14c_0001.pdf) [2010-07-08]
- 19) 細川満子・千葉敦子・山本春江他(2008). 教員が考える在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度 青森県看護教育研究会地域看護学グループの取り組み. 青森県立保健大学雑誌, 9(2), 159-165.
- 20) 海上芙美子・大田容子・山田美智子他(1997). 専門分野のカリキュラム案と展開 在宅看護論 “生活モデル” でのアプローチを視座においた検討. 看護展望, 22(2), 204-211.
- 21) 柳原清子・千葉京子・有馬千代子(1996). 老人看護実習における病棟実習から訪問看護ステーション実習への転換 医学モデルから生活モデルへ. 日本赤十字武蔵野女子短期大学紀要, 9, 21-29.
- 22) 山本真(2007). 生活モデルの視点を取り入れたかかわりの効果について 保護室での生活を希望する事例にかかわって. 日本精神科看護学会誌, 50(2), 529-533.
- 23) 野嶋佐由美・畦地博子・森岡三重子(1995). 精神科看護者の境界性人格障害に対するとらえ方と態度. 看護研究, 28(6), 432-441.
- 24) 松本健児(2008). 多職種によるチームアプローチの効果について 看護に変化をもたらした事例を通して. 日本精神科看護学会誌, 51(3), 597-601.
- 25) 前城廣美(2007). 閉鎖病棟長期入院患者の退院へのかかわり 服薬継続への支援. 日本精神科看護学会誌, 50(2), 414-417.
- 26) 垣田宜邦・寺田晴美・河内俊二(2010). 「生活モデル」と「家族支援」を重視したかかわりについての一考察 インフォームドコンセントが困難だった事例から学んだ退院調整への気づき. 日本精神科看護学会誌, 53(1), 258-259.

- 27) 石川敦成(2007). 精神科デイケアにおける看護の役割を考える 就労支援の事例を通して. 日本精神科看護学会誌, 50(2), 460-464.
- 28) 小澤壽江(2008). 精神科リハビリテーションにおける援助の考察 利用者がいきいきとした生活を送れるようにストレングスモデルと ICF の概念を取り入れた評価表を使用した援助の実践. 日本精神科看護学会誌, 51(3), 209-213.
- 29) 小田潤・伊勢田堯(2007). <失敗学>から学ぶ精神科臨床サービス 失敗事例から学ぶプログラム別 生活訓練施設が提供する社会復帰援助プログラム. 精神科臨床サービス, 7(2), 245-249.
- 30) 秦基子・田中聡子・植田俊幸他(2011). AOT (Assertive Outreach Team: 積極的訪問チーム) 活動報告 他職種チームによる包括的な地域生活支援の取り組み. 鳥取臨床科学研究会誌, 3(2), 134-139.
- 31) 高橋澄子・河野由里・河野美智子(2007). 精神科看護師が患者ケアの中で困難に感じた内容. 日本看護学会論文集: 精神看護, 38, 147-149.
- 32) 荻野真奈美・上田祐平・公文聡ほか(2006). 精神科における対応困難な患者に対する看護体験 看護者の感情と対応に焦点をあてて. 日本精神科看護学会誌, 49(2), 99-103.
- 33) 船越明子・宮本有紀・萱間真美(2006). 訪問看護ステーションにおいて精神科訪問看護を実施する際の訪問スタッフの抱える困難に対する管理者の認識. 日本看護科学会誌, 26(3), 67-76.
- 34) 新井香奈子・中野康子・梶原理恵他(2011). 管理者の認識する精神科訪問看護実践における困難. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要, 18, 109-118.
- 35) 林裕栄(2010). 精神障害者と在宅ケア: 精神科訪問看護における看護師の抱える困難に関する考察. 日本在宅ケア学会誌, 13(2), 12-16.
- 36) 中川貴久美(2010). 精神科外来看護師が抱えるジレンマと対処行動. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録, 35, 182-188.
- 37) 中村順子(2010). ゆらぎを越えた先にある訪問看護のおもしろさを伝えたいー管理者が行う新人訪問看護師への関わりを探索してー. 訪問看護と介護, 15(3), 198-204.
- 38) 富安眞理(2005). 病院から在宅へ移行した新人訪問看護師が看護実践への自信を深める要因の検討. 日本看護学教育学会誌, 15(2), 39-49.
- 39) 前掲論文 36)

- 40) 増田尚美・伊藤まどか・山田佳奈子他(2001). 救命センターに配置転換した看護婦の職場適応一面接調査から受け入れ体制を再検討してー. 日本看護学会論文集：看護管理, 32, 222-224.
- 41) 中村由子(2010). 配置転換による中堅看護師の「一皮むけた経験」. 日本看護研究学会雑誌, 33(1), 81-92.
- 42) 牧野耕次・比嘉勇人・甘佐京子他(2011). 精神科看護師による境界の調整に関する技術的要素. 人間看護学研究, 9, 117-125.
- 43) 萱間真美(2007). 特集訪問看護に求められる技術って何だ？精神科訪問看護のケア内容と効果 病棟でのケアとの違いに焦点をあてて. 精神科看護, 34(7), 12-16.
- 44) フィル. バーカー (2000). 特集エンパワメントに着目した活動を 精神保健活動の技術としてのエンパワメント. 萱間真美訳(2000). 保健婦雑誌, 56(13), 1136-1142.
- 45) 同上論文
- 46) 同上論文
- 47) 前掲論文 33)
- 48) 前掲論文 34)
- 49) 山元由美子・長谷川龍太郎・藤井恭子他(2003). 看護領域の違いによる職業的アイデンティティの差異の検討ー一般病院とリハビリテーション専門病院の看護師の比較-. 茨城県立医療大学紀要, 8, 89-97.
- 50) Allan, H. & Barber, D. (2005). Emotional boundary work in advanced fertility nursing roles. *Nursing Ethics*, 12(4), 391-400.
- 51) Kipping, C. J., & Hickey, G. (1998). Mental health nurses' expectations of community work. *Journal of Clinical Nursing*, 7, 531-538.
- 52) McGarry, J. (2010). Relationships between nurses and older people within the home : exploring the boundaries of care. *International Journal of Older People Nursing*, 5, 265-273.
- 53) 前掲論文 42)
- 54) Travelbee, J. (1971). *Interpersonal aspects of nursing* (2nd ed). Philadelphia: F. A. Davis.
- 55) 服部美香・舟島なをみ(2011). 問題解決場面における看護師-クライアント間相互行為パターンの解明. 看護教育学研究, 20(2), 8-9.

- 56) 黒田裕子(2000). 看護過程の教え方第1章看護過程の意味と位置づけ. 医学書院. 1-13.
- 57) 外口玉子(1993). 第9章2 精神科医療における看護婦の自律性. 外口玉子著者代表. 系統看護学講座別巻 13 精神疾患患者の看護. 医学書院. 301-304.
- 58) 前掲論文 9)
- 59) 濱田秀伯・橋田昌也・相田信男他(2009). 第5章A 治療の前に考えておくべきこと. 武井麻子著者代表. 系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学1. 医学書院. 176-179.
- 60) 前掲論文 28)
- 61) 白澤政和編著(2009). ストレングスモデルのケアマネジメント-いかに本人の意欲・能力・抱負を高めていくか-1. ストレングスとは何か. ミネルヴァ書房. 2-7
- 62) Phil Barker. & Buchanan-Barker, P., (2005). The Tidal Model: A Guide for Mental Health Professionals. London: Brunner-Routledge.
- 63) Phil Barker. & Buchanan-Barker, P., (2010). 第Ⅳ章4 英国にみる精神看護実践モデル-メンタルヘルスの回復についてのタイダルモデル. 萱間真美・野田文隆編. 看護学テキスト NiCE 精神看護学 ころろ・からだ・かかわりのプラクティス. 南江堂. 425-433.
- 64) Buchanan-Barker, P. & Barker, P. (2008). The Tidal Commitments: extending the value base of mental health recovery. Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, 15, 93-100.
- 65) 前掲論文 44)